

令和7年度 第3回大東市総合計画・総合戦略審議会 会議要旨

1. 開催日時 令和7年12月23日(火)午後2時～4時

2. 開催場所 大東市役所 南別館会議室

3. 出席者

審議会委員

・1号委員(市議会議員)	東 健太郎	委員
・1号委員(市議会議員)	安田 恵子	委員
・1号委員(市議会議員)	水落 康一郎	委員
・2号委員(学識経験者)	三 吉 修	委員
・2号委員(学識経験者)	澤 登 千恵	委員
・3号委員(行政機関)	関本 武史	委員
・4号委員(市民代表者)	品川 公男	委員
・4号委員(市民代表者)	住川 奈美	委員
・4号委員(市民代表者)	田中 恒成	委員(欠席)
・4号委員(市民代表者)	藏前 芳治	委員
・4号委員(市民代表者)	松崎 勝美	委員
・4号委員(市民代表者)	原田 泰志	委員
・4号委員(市民代表者)	吉田 夏樹	委員
・4号委員(市民代表者)	川崎 智恵香	委員(欠席)
・4号委員(市民代表者)	高橋 黎也	委員

事務局

・政策推進部長	野村 政弘
・政策推進部総括次長兼戦略企画課長	福田 悦子
・政策推進部戦略企画課課長補佐	北谷 友香
・政策推進部戦略企画課上席主査	廣田 菜美
・政策推進部戦略企画課係員	松井 智輝

4. 案件

- ・第5次大東市総合計画(後期計画)及び第3期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂案について
- ・その他

5. 配布資料

資料1 総合計画改訂案

資料2 総合戦略改訂案

資料3 総合計画・総合戦略審議会論点

6. その他

傍聴希望者 0名

7. 発言要旨(協議または調整が行われた事項及びその内容)

【事務局】

ただいまから、令和7年度 第3回大東市総合計画・総合戦略審議会を始めさせていただきます。

皆さまにおかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

今年10月に、第2回審議会を開催し、「総合計画」と「総合戦略」の素案をお示しさせていただき、皆さまからご意見を頂戴したところです。

3回目の会議となる本日は、皆さまから頂戴したご意見や庁内会議、ヒアリング等での意見を踏まえて作成しました「総合計画」と「総合戦略」の改訂案をお示しさせていただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

はじめに、「大東市審議会等の公開に関する規程」第3条第1項におきまして、本審議会は公開する旨規定しておりますが、本日傍聴の申し込みはございませんでした。

また、本日の会議要旨を後日ホームページ上で公開させていただく予定にしておりますので、ご了承いただきますようお願いします。

なお、田中委員、川崎委員につきましては、本日ご欠席のご連絡をいただいておりますので、あわせてお知らせします。

それでは、本日初めてご出席される、住川委員に自己紹介を兼ねて、簡単に一言ごあいさつを頂戴できればと思います。

【委員】

(挨拶)

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、配布資料の確認をさせていただきます。

(資料の確認)

すべてお揃いでしょうか。

それでは、ここからは、大東市総合計画・総合戦略審議会規則第3条第1項の規定により、三吉会長に議事進行を行っていただきたく存じます。

三吉会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

【会長】

それでは早速ですが、次第に基づいて会議を進行させていただきます。

まず最初に、これまで会長の職務代理を高島委員にお願いしていましたが、この度、委員に変更があったことから新たな代理者を会長として指名したいと思っております。品川委員、お願いできますでしょうか。

【委員】

承知しました。

【会長】

よろしくお願いします。

それでは本日配付された資料につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料の説明)

【会長】

今、事務局より、総合計画と総合戦略の改訂案についての説明をいただきましたが、事前に皆さま方にお聞きしたい事項について事務局より2点お示しがありました。

1点目は、総合計画の改訂案について、前回の審議会や庁内会議等で寄せられたご意見を踏まえて修正を行っているということですが、さらに追加すべき内容や修正すべき点などについて、ご意見をいただきたいと思っております。

2点目は、総合戦略改訂案3ページの「総合戦略における施策の方向性」について、考え方や関係性をよくわかるように再整理し、図を作成し直していただいておりますので、わかりやすい内容になっているかなどのご意見をいただきたく思います。

また、6ページからの「重点各分野の取組」について、各施策の文言等の修正、あるいはKPI等の項目の設定などが行われておりますので、これらについても、追加すべき内容、あるいは修正すべき点などが無いかなどのご意見をいただきたく思います。

以上、論点1、2のうち、両方でもどちらか一方でも構いませんので、ご意見をお聞かせいただければと思います。

全員からご意見を頂戴したいため、お一人3分程度を目安にお話いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

また最後に、皆さま方の意見に対するご意見や質問、あるいは先ほど言った2点の論点以外にも、ご意見がありましたら、お聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【委員】

年の瀬も迫ってきましたが、この審議会も今年度は年明けにあと1回の開催を残すのみとなりました。事務局から説明もありましたとおり、これは議会の議決案件ということで、順調にいけば3月議会上程になるかと思っております。私も委員の1人として、上程されることに思いもひとしおです。

総合計画について確認しましたが、様々な分野から有識者としてご参加いただき、それぞれの考えを述べていただけてきた中で、それらの意見がしっかりと反映されていると感じているところです。

個人的に、総合計画の10ページの「行財政基盤」の部分については、素案の当初から今日まで文言を残していただけており、ありがたい気持ちでいっぱいです。中期財政収支見通しも踏まえる中で、今後しっかりと力を入れていかなければならない分野だと思っております。

今回、総合戦略の3ページ目のところの表を新しく作っていただいたという理解をしておりますけれども、どうしてもこのように書くと、それぞれの部門がどのような形でぶら下がってるのかということ意識してしまいます。プロセスベースでブロックを作って、線で繋いで関係性を示していただいていると思うのですが、実際にはここに、それぞれの部門や各部署の考え方が紐づいていくことになるかと思えます。

これを見たときに、具体的な手段として、例えば総合戦略の6ページの「危機管理の徹底」にある「公共施設の老朽化対策」というものが、総合計画のところにある「行財政基盤」にも関係することになるかと思えます。

ですので、片方ではそういった今後の人口動向も見据えた適正なハードについて考えていこうと言っている中で、もう片方では、安全面からの、将来の公共施設のあり方と連動した計画的な老朽化対策という形になってきます。維持管理の視点から長寿命化を図らなければならないという考え方で、この項目では示されているわけですが、総合計画においては、再編も含めた考え方をしっかり持ってやっていかなければならないとなっています。

これを総合戦略のぶら下がりで考えたときに、18ページの「行政サービス改革」の「財源確保と歳出削減、資源の最適化」というところで、「公共施設などの廃止、再編、活用による総量の見直し」「床面積の削減」というように紐づいて書かれているわけです。

ですから、この「危機管理」の「安全」という部分と、「行政サービス改革」の「公共施設の廃止、再編、活用」という部分の両面があるという形になるので、3ページ目に示されたこのプロセスのフロー図において、横断的な考え方についてどのような形で今後進めていくのか、部門間でのコミュニケーションの取り方なども、示していく必要があるのではないかと感じたところです。

KPIは別表で管理していくということで、議会にも情報共有されるということなので、そこはしっかり見ていきたいと思えます。

【会長】

ありがとうございます。

今のご意見は、総合戦略の3ページの図を見たときに、緑色の部分に書いてある総合戦略の個々の連携について言われたわけで、単なる廃止だけでなく、安全面も考えて進めるというお話でした。

この図で言えば、3つ目の「まちづくりの展開方針」というところに、「安全・安心の土台の構築」という大きなくくりが一番上にあって、その中で個々の取組の場合にもそれらを考えながら、きちんとやっていくべきだ、というそういうご意見だろうと思えます。ありがとうございました。

次のご意見をお願いします。

【委員】

総合計画の方は、特段意見はありません。

総合戦略については、まず1点目ですが、4ページの上段の文章の言い回しが気になったのですが、1行目の、「すなわち市民の幸福度の向上させることが」というところが、「市民の幸福度の向上をさせること」、もしくは「市民の幸福を向上させること」という方がいいのではないかと思います。

それからもう1点が、11ページについてです。先ほど委員もおっしゃいましたが、この審議会も年明け

1月が最終で、もう答申案をまとめないといけないという段階の中で、そんなにたくさんの修正を言うつもりはないのですが、1点だけ気になったのが、「確かな学力の向上と教育環境の充実」のところで、「ICTの効果的活用」という記載はあるのですが、「理科教材や実験器具の充実」という記載もあっていいのではないかと思いました。現在は改められていると思いますが、大東市は15年、20年もの間、国の補助金をもらっていなかったということもありましたので、そういったところも必要であれば記載していただければと思います。

それから、13ページの「出産や子育ての安心と魅力の創出」の「(3)子育てニーズの多様化に応じた子育て環境の充実」の中で、「子育て複合施設の充実」として「フロムアースキッズの利用者の増加」という記載があるのですが、この部分でフロムアースキッズだけでいいのかというのが少し気になりました。

市役所庁舎の整備の関係で、統廃合予定なのであえて入れていないのかもしれませんが、大東市においては、「キッズプラザ」や「ネウボランドだいてう」など、子育てに関連する施設が色々あるので、「キッズプラザ」と「ネウボランドだいてう」について、記載が必要であればしていただきたいと思いました。

【会長】

ありがとうございます。

「市民の幸福の向上」という部分は、ミスプリントかと思いますが、「市民の幸福度を向上」にしていたいただければと思います。

【委員】

私は、総合計画について、少しご意見させていただこうと思います。

今回色々修正した案を出していただいております、ICTやAIなどを記載していただいた点や人口減少を前提にした現実的な計画にしている点、安全・安心を土台に据えている点はとても良い内容になったと思っています。

一方で、今後5年間で何を最優先にして取り組んでいくかというイメージが、少しまだ弱いのではないかと思います。特に大東市は将来的に基金が枯渇する見通しがある中で、優先順位をより明確にする必要があると私は思っています。

5年間で最優先するべきは、財政健全化と行政改革です。行政改革、特にDXによる業務効率化や公共施設の再編・最適化は待ったなしで進める必要があると思います。

そして、財政健全化、行政改革と並行して進めるべきは、やはり教育だと思っています。行政改革だけに偏ってはいけません。教育はコストではなく、将来への投資と考えて優先的に行うべきだと思っています。なぜなら、学力の底上げや不登校対策、家庭環境に左右されない学びの保障といったことは、費用対効果が高く、中長期的にも財政にも良い影響を与えているからです。

修正をお願いするとすれば、総合計画の4ページから5ページの「まちづくりの考え方」と「めざす将来像」のところで、「次の5年は財政健全化と行政改革を最優先する」という位置づけを、もう一段ははっきりと書いていただいて、その上で「教育については重点分野を絞って集中的に取り組む」という考え方を明記していただきたいと思っています。

そうすることで、市民にとっては行政との約束になりますし、職員にとっては判断の軸になります。何を優先してこの5年間進めていけばいいのかということが、より明確にわかるのではないかと思いますので、お願いしたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。

何を最優先させるかというところで、財政の健全化、行政改革、それから教育が最優先だということを言われました。重要なことではありますが、総合戦略の3ページの今回新しく示されている図を見ますと、総合戦略における施策の方向性として、「安全・安心の土台の構築」「大東ならではの付加価値の創出」、そしてそれらを支えるための「財政基盤の強化」という形で、何をやるにおいても、財政の健全化は必要であると示されています。様々な取組をするための基本となるのはそこであり、そのためには行政改革も必要である、それと同時に、住民が幸せになるための、例えば子どもに対しては教育をしっかりやっていこうというようなことも盛り込まれています。ただし、子どもの教育だけではなく、住民には色々な方がおられますので、皆さんのためにどのようなことをしたらいいのか、ということはこの総合戦略の中では重点分野として出しています。

そういう意味で、色々な考え方があって、最優先事項だけを徹底してやるという考え方もあるかもしれませんが、教育というものはこれからもずっと続くものでもありますし、少なくとも今後5年間において、教育だけを徹底するかということを見ると、やはり色々な政策のバランスということも考えなければいけません。そういうことを踏まえて、今回はこういった案をご提案しているということです。

ご意見として承りました。ありがとうございます。続いてご意見をお願いします。

【委員】

まず、総合計画の6ページのところに、「安全・安心の土台の構築」「大東ならではの付加価値の創出」「財政基盤の強化」の3つが並べられていますが、「財政基盤の強化」とは何かということで、財政力を向上させるということになるかと思います。しかし、審議会においては、今お話のあったような中期財政収支見通しがわからない状況なので、これについてどう対応したらいいのかは判断できかねると思います。

それ以外の文言については、大きく違和感あるものはなく、意見を述べる場所もそうないと思っています。

総合戦略については、恥ずかしながらこの審議会に入らせていただいてからKPIというものについて知り、自分なりに多少調べたのですが、危機管理の徹底の中に書かれている「自治会加入率」は、KPIと言えるのか少し疑問に思いました。

例えば、今大東市全体の自治会加入率は、64%程度ですが、それを70%まで上げようと私たちは色々ところで言っています。このように現状を踏まえてめざすパーセンテージを定めるのがKPIではないかと思っているのですが、ここでは目標が文章で表現されていて、右も左も同じ内容が書いているように思えます。これだと取組目標という捉え方しかできないので、これをKPIというのはどうかと思いました。

それから、17ページの「まちづくりへの参画によるシビックプライドの醸成」ということで、「シビックプ

ライド」という言葉を調べたところ、「まちの誇り」といった意味が含まれていることを知りましたが、こういったところでも、「地域活動への参加促進」という取組のKPIとして「自治会加入率の増加」と書いていますが、これはKPIではないと思います。「現状は自治会加入率が64%しかないため、70%に向上させるための対策をつくる」というようなことであれば、一つの目標というものがはっきりわかりますが、今のKPIの文章だけでは、これが果たしてKPIと言えるか、ということをおもいました。

それから財政の話に戻りますが、私たちは資料を持っていないので、今現在の大東市の財政状況や、これからの中長期にわたる財政計画が、果たしてこの計画の目標と合致しているのかということも知りたいと思いました。

【会長】

ありがとうございました。

総合計画の9ページの下から2行目のところに、「それを市民がわがまちの誇り(シビックプライド)として」と書いてあるように、先ほどの事務局の説明では、カタカナだけではなく日本語で分かりやすく書くようにするか、もしそういうことを書けない場合には、注釈を入れると言われていましたので、KGIやKPIについても、おそらくわかりやすく注釈などがつくのだらうと思います。

もう一つ、財政基盤を強化と書いているけれど、今、財政状況がどうなのかということが情報として我々はわかってないということをおっしゃられました。

総合戦略の18ページに、「財政の安定化、健全化」や「将来負担比率なしを維持する」ということが書かれてあります。あるいはその下の(1)のところに、「財源確保と歳出の削減、資源の最適化」や、その下のKPIとして「経常収支比率を府平均よりも改善する」といった目標が書かれています。

毎年のように財政というものは変わるわけで、我々がその情報を知る手段としては、大東市報があります。毎年1回財政状況の報告があり、そこで比較的詳しく書かれています。

【事務局】

今委員からご質問あった内容ですが、市の方では、毎年、中期財政収支見通しというものを作っています。これは何かと言いますと、大東市の財政状況や運営課題を明らかにし、財政運営を進めていくための方向性を検討するための土台として作られるものとなっています。

この収支見通しは、一定の財政のシミュレーションとして数字を積み重ねており、今であれば、令和20年度までの15年間のシミュレーションを作っております。

この間、皆さまもご承知のとおり、物価高騰に伴い色々な金額が上がっています。例えば、建設事業費は、一番大東市にとって大きいものですが、小中学校の長寿命化計画等に基づいて、毎年取組を進めています。

また、耐震性のない今の庁舎の整備についても、令和20年度末までの15年間の間で、建設をしていくということで、大きな金額を積み上げております。

それから、耐震性のない市営住宅の建て替えについても、大きな金額となっており、これらを積み重ねますと、令和10年度以降に収支不足が生じる、すなわち歳入と歳出が逆転してしまう予測となっています。財政調整基金という貯金を取り崩すことで、一定黒字は続いていくのですが、その貯金も、令和13年度にはなくなるというシミュレーションとなっています。

ただし、基金としては、他にも大きな基金があります。庁舎整備基金、公共施設の基金、そして、最も使途の自由度が高い財政調整基金などです。これを含めると、現在は200億近くの貯金があります。それを一定保ちながら、財政運営をしているという状況です。

この財政調整基金というものが令和13年度に枯渇していくのではないかと、というのが今のシミュレーションになっており、そうならないように、公共施設の再編等を行い、歳出を抑制したり、また色々な交付金等の特定財源を取っていくことが必要と考えています。

ふるさと納税も大きな額を頂戴しておりますが、他にも色々な資金運用をして、歳入増加をめざしていきたいと考えています。

毎年、中期財政収支見通しを作るのですが、今の大東市の現状としては、令和2年度以降この財政調整基金を繰り入れた決算にはなっておらず、黒字が継続されているという状況です。ですが、この結果に甘んじるのではなく、危機感を持って色々な事業に取り組んでいこうとしている状況です。

【会長】

ありがとうございました。それでは次のご意見を伺います。

【委員】

まず、総合計画について、大きなところの修正はないのですが、6ページの「まちづくりの展開方針」で、大きく3つの視点を持ってやっていくことが書かれてあります。そのあたりはよくわかるようになったのですが、この3つがこのあとの危機管理以降にどう繋がっていくのかが、わかりにくいと感じました。

3つの展開方針をもってまちづくりを推進していくということですが、そこで文章が終わってるような感じがするので、危機管理以降の文章と繋がっていくことがわかるよう、何か一つ説明を加えたらいいのではないかと思います。

続いて総合戦略ですが、3ページの総合計画と総合戦略の関係ということで、確認させていただき、わかりやすくなったと思います。まず左側に、総合計画の中の理念や将来像、まちづくりの展開方針までが書かれていて、このまちづくりの展開方針が、どのように総合戦略に関係していくのかということについては、一対一で繋がらないけれど、こういう形で繋がってますというようなご説明をいただきました。

同じページの上段の文章や次のページの文章で、総合計画の理念と将来像を踏まえた総合戦略の政策の方向性は書かれていますが、展開方針との関係が特に文章で書かれていないので、何か説明を入れていただいてもいいのではないかと思います。

総合計画の方は展開方針で進められていて、それを切り口を変えて、特にこの5年で総合戦略としてこういうことをやっていく、ということを説明されていたと思うので、そのあたりを何らか補足いただけたらいいのではないかと思います。

それから、文字としては、「定住意欲の向上」や「転出抑制」というものが達成指標として書かれていますが、この図の中で、「定住したいまち」という言葉がどこにも出てきていません。基本的に「1人ひとりの幸せの増大」が定住したいまちに繋がっていくかと思うのですが、ここの目標の中で「定住したいまち」が見えてこないことが気になりました。

なぜかと言うと、6ページ以降の重点各分野の取組の中で、「めざす定住したいまちの姿」がそれぞれに書かれていて、この大きな目標のもとにKGIが設定されているという形なので、この「定住したいまち」がどこで目標になっているのかがわかるよう、どこかに書いておく方が分かりやすいのではないかと思います。

【委員】

私からは1点だけで、総合戦略の18ページ、「8.行政サービス改革」のところになります。

定住促進を図ることに重きを置くということですが、この様々な施策を実行するためには、やはり職員の質や量というところが特に大事になってくるのではないかと思います。その中で、課題として「職員の人材確保が難しい」と書かれているところですが、総合計画で「定住したいまち」というところをめざすのであれば、職員についても、外からの確保という観点だけではなく、中の人をいかに逃がさないか、というところの観点も書いていただくとより良いのではないかと思います。

ちょうど昨日、デジタル推進課主催の生成AI関連の研修講師を務めさせていただきました。職員の皆さんのグループワークの様子等を見させていただいておりましたが、やはり大変優秀な方が多いという印象で、かつ優秀なだけでなく、魅力的な職員の方が大変多いという認識をしました。

私も大阪府内の色々な自治体をまわらせていただいておりますが、大東市役所の人事課の方も誇っているのではないかと思います。大変優秀で魅力的な職員が多いと感じています。そういった職員が、いかに外に出ていかないようにするのか、という「流出防止」にも努めていただくと、行政サービスの質の維持ということも叶えやすくなるのではないかと思います。

ここの書きぶりについて、どのように書くのかというのはお任せしますが、例えば、一つハードルを上げるのであれば、職員の離職率についてのKPIを設定されると、離職率を上げないように一生懸命頑張れるのかなとも思いますし、なかなかハードルが高いかもしれませんが、可能であれば、「確保」だけではなく、「定着」も文言として書いていただくと、より良いのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。

毎年、職員の在籍状況というものが市報でなされています。ただ、何人新たに採用されたとかいう内容は確かあったと思うのですが、離職率というのはあまり表に出ていなかったかと思います。過去5年で大体平均してどれくらい離職されているのかがわかれば教えていただきたいです。

【事務局】

人事課に聞けばわかるのですが、そういった情報については、我々にもあまりオープンにされていないところだと思います。退職された方については、庁内の広報を通じてお知らせがありますが、感覚としては、離職率は昔に比べて上がっているのではないかと思います。採用されて1、2年の方が他の職種や他の市役所に転職された、というようなことを、よくお聞きする状況です。離職率については、また調べて報告させていただきます。

【会長】

以前、この会議でも「住民が転出されるときには、できるだけ理由をお聞きしてほしい」というような意見が出たかと思いますが、同じように職員が離職するときにも、その理由を聞いておかれたら良いのではないかと思います。

例えば、公務員が駄目なのか、それとも他の自治体のところに自分が住んでいるからそちらに移るのか、などを聞いておくと、職員の勤務状態に対する問題点なども出てくる場合があると思いますので、これは人事課マターかとは思いますが、理由を聞かれてもいいのではないかと思います。

それでは、次のご意見をお願いします。

【委員】

私は総合戦略について意見をさせていただこうと思います。

具体的なページとしましては、16ページ、17ページとなります。全体的には、よりわかりやすいものに修正されているかと思いますが、その中で、定住意欲の向上として、やはり変化をわかってもらうことが大事ということで、今回「発信」と、それから「周知」という言葉が追加されているところに注目しました。

「発信」だけではなく、「周知を意識した発信」というものが、とても大事だと思っています。今回これが明記されたということは、とても喜ばしいことだと思うとともに、今後は周知度をフィードバックしていくことが、おそらく大事になるのではないかと思います。私は大学に所属しておりますので、周知される側の若年層の代表として、学生を含め、良ければ私たちも協力させていただきます。

周知度を測ることによって、発信の感度がぐっと上がっていくと思います。また、大東市を知ることは、学生にとっても非常に良いことですし、それが少しでも大東市に貢献できることに繋がればいいと思っていますので、よろしければまたお声掛けいただけたらと思います。

【委員】

私からは、総合戦略に関して、追加すべき内容についてお話をさせていただきます。

総合戦略の11ページから12ページの「教育」の項目の中の、(1)の「学力向上」か(3)の「小中一貫教育の推進」に入ってくる内容だと思いますが、「義務教育の段階からお金の勉強を行うべきではないか」という内容を追加していただきたいと考えています。

その理由は、高校や大学を卒業すると、多くの人がすぐに社会人として働き、収入を得る立場になるからです。社会に出た瞬間からお金に関する判断は避けて通れません。社会人になると給与を受け取るだけでなく、様々な税金を納める義務が生じます。しかし、税金がどのように決まり、どのような方法で納められているのかということを十分に理解しないまま働き始める人も少なくありません。給与明細に記載されている控除の意味がわからず、「なぜこんなに引かれているのか」と疑問を感じることもあると思います。こうした状況はお金に関する不安や不信感に繋がりがやすいと言えます。

義務教育でお金の勉強を行えば、収入から税金が差し引かれる仕組み、住民税の支払い、確定申告といった、社会に出てすぐに必要となる基本的な知識を身につけることができます。これにより、社会人としてのスタートを安心して切ることができると思います。

また、お金について学ぶことは、将来のことを考えるきっかけにもなります。平均年収を知ること

自分はどのような仕事に就きたいのか、どの程度の収入をめざしたいのか、といった、大まかな方向性が見えてきます。

その結果、もっと稼ぎたいと考えれば、難しい学校への進学をめざしたり、スポーツに打ち込み、プロをめざしたいという前向きなモチベーションが生まれやすくなると思います。

このように、義務教育でお金の勉強を行うことは、将来を見通して考える力を育てるとともに、お金に関する基礎的な知識を高める上で非常に重要です。

高校や大学を卒業した後、安心して社会に出て、自立した社会生活を送るためにも、義務教育の中でお金について学ぶ機会を充実すべきだと考えています。

【会長】

ありがとうございました。

非常に共感を覚えます。義務教育のカリキュラムの中にはないかもしれませんが、色々な機会を捉えて、社会人の方から教えてもらうということは良いことだと思います。

例えば、この会議にも銀行の方がおられますが、銀行というのは何をしているところなのか、どういう仕事をしているのか、銀行員は何をするのか、ということについて、私は高校ぐらいまで、お金を借りたこともないし、預けたこともなかったので、知りませんでした。

そういった企業の方をお呼びしたり、あるいは今盛んに言われているような、NISAなどで、証券会社の方がこの仕組みを子どもたちにも教える、ということがあっても良いと思います。

私の経験で言えば、従来であれば、お小遣いを自分で管理する程度でしたが、税金のことであれば税務署の方や市の税務課の方など、具体的に取り扱っておられる方をお呼びして、適切な時期に少しずつでもそういう社会に対する関心を持つということは非常にいいことだと私は感じました。

それでは、次のご意見をお願いします。

【委員】

どこが悪いというところも見つけれないので、これで良いのではないかと思います。この流れに沿って現実的に行政が動いて、どんどん大東市を良くしていただければ良いと思います。

ただ、この3ページの図は、自分としてはわかりにくく感じました。

【委員】

お金のことに関して、少しだけ最初にお伝えできればと思います。私どもの銀行も、実は小中学校の方向けに、「キッズマネーアカデミー」というものを実施しています。これは、全国的に各支店でやっているものなのですが、若年期からの学びに取り組んでいきたいという思いで、お金の流れなど、いわゆる金融リテラシーを向上させるということで実施しています。約20年間やっているのですが、周知不足ということで反省しています。

それから、委託を受けて大東市内の高等学校向けの金融セミナーをさせていただいたり、職場体験ということで、地元の中学生の方に、住道支店に2日間来ていただいて、少しお仕事に携わっていただいたりなど、そういった取組もしています。

今後もさらにそういった取組を進め、ご理解いただけるように取り組んでいきたいと思っています。

本題の総合計画につきましては、私の方では特に内容について修正点などはないと考えています。先ほど他の委員もおっしゃいましたように、前回までの色々な意見が集約された形だと感じております。

具体的などころではないのですが、例えば総合計画の1ページ目の趣旨のところの赤字部分に「変化の激しい世の中」と書かれていますが、これは我々を含めすべての方々を取り巻く環境かと思います。こういった環境下で、既存の枠組みにとらわれていては、なかなか前に進んでいかないというのが共通の認識だと思います。こういった中で、公民連携もしくは大学を含めた「産官学」と言われるような要素を持って、地域課題への取組を行っていくことが非常に大切だと思っています。こういったところが非常に良いのではないかと思います。

一点だけ、KPIについて、私のKPIに関する捉え方がもしかすると間違っているのかもしれませんが、戦略のところでも色々「〇〇の増加」といった指標が書かれています。

例えば、13ページの「子育て」のところに、「サポート券の利用率の増加」というようなことが書かれており、これを目標のようにとらえるとKGIになるのかもしれませんが、いくら増加させるのかといった具体的な水準が必要なのではないかと感じました。

なかなかそこを打ち出すのは難しいのかもしれませんが、現状の数値がどれぐらいで、どれぐらいまで増加させるのかという具体的な指標があると、非常にわかりやすくなるのではないかと思います。

【事務局】

KPIにつきましては、先ほど他の委員からもご質問がありましたが、今回お示ししている資料では「増加」や「維持」といった表現でしか書いていないのですが、最終的には現状値と目標値を数字でお示しさせていただこうと思っています。本日の資料には間に合わず、このような文字だけになってしまい、わかりにくかったかと思いますが、最終的には本体ではなく、別の表にて現状値、目標値を数字で書かせていただいて、参考資料という形で本体とセットでお示しできればと思っています。説明不足で申し訳ありません。

【委員】

もうすでに、皆さんから色々ご意見が出ていますので、特に私からは大きな意見はないのですが、総合戦略について、3ページの図に関しては、比較的わかりやすく計画と戦略の関係が示されているのではないかと思います。

それからKPIにつきましては、先ほどご説明あったように、後ほど具体的な数値目標というものが示されるということであれば、特に申し上げることはありません。ただ、非常に色々な項目、多岐にわたってKPIが示されるからには、市役所の職員の取組だけではなく、多くの市民の協力も不可欠であろうというように思います。そのところは、色々な連携を強く意識していただきたいと思います。

それから、やはりこの総合戦略の最後に書かれている「検証と進捗管理」のところも非常に大事だと思います。「常に柔軟に戦略の見直しを図る」と最後に書いてありますけれど、5年間の期間の中で、その時代、その時々合った戦略の見直しが必要ではないかと思います。それにはやはり、検証と進捗管理が重要だと思います。

それから「財政健全化」について、先ほどご指摘がありましたが、これだけ多くのKPIを達成するには、やはり財政的な裏付けも一方で必要ではないかと思います。それと健全化をどう両立させるのかとい

うところが非常に難しいと思いますが、ある程度は内部的に優先順位をつけ、メリハリをつけることが必要ではないかと思います。

やはり、最初に申し上げましたように多くの市民の方との連携、それから財政的なメリハリと優先順位、そのところは非常に重要になるのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございました。

今、「財政的な裏づけと健全化」ということをおっしゃったのですが、戦略の18ページの一番下に、「基金の堅実で効果的な運用」という記載があって、「運用利子額(預金と債権)の維持」ということが書かれてありますが、基金等について投資ということが許されているのかどうかをお聞きしたいです。

【事務局】

「投資」という言葉で誤解があってはいけないので、お伝えさせていただきますと、市で行っているのは、預金と債券の運用で歳入を増やすということになります。

【会長】

株式投資はないということですね。ありがとうございます。

それではお待たせしました。次の方のご意見を頂戴したいと思います。

【委員】

今回、初めて参加させていただきます。資料をいただいたのが昨日で、読み込めていない状態でもありますので、ここで修正等の意見を述べることは差し控えさせていただきますが、自分の職業としております「薬局」という立場から、危機管理の部分であったり、福祉・介護の部分であったり、専門的なことでわかることがあれば、今後意見を述べさせていただきます。

大東市の市長様と少しお話する機会があったのですが、やはり人口流出などについて、とても懸念されているようでした。どうして大東市に転入が少ないのか、大阪などからの立地的にも問題はない、交通の便も良い、しかもそこまで高くもない、にもかかわらず、どうして選ばれないのかを考えたときに、「大東市を選ぶ」ための魅力がどこか欠けているのではないかと感じました。大東市の魅力をもっと打ち出していかなければならないと常に思っています。

それから、私はこの大東市で起業させていただいたのですが、起業支援というものに力を入れてもらえたら、ここで働く人たちも増えますし、人口も増えることに繋がるのではないかと思います。若い人たちが「ここで起業してみよう」と思うような基盤ができればいいなと思います。そういう要素も入れていただければと思いました。

【会長】

ありがとうございました。

私も少し意見を述べさせていただきます。戦略の3ページの下から5行目のところですが、これは非常に意欲的な表現だと感じています。今までは何となく「守り」というような感覚が見えるよう

な感じがしたのですが、ここでは「大東ならではのソフトを活かしながら、ハード的にも人口減少時代に即したまち作りに取り組むことができるチャンスの時期を迎えている」という表現をされています。危機をチャンスとして捉えているということは、非常に意欲的な表現だと思います。

それから、重点分野の取組の中の色々なところで「情報発信」ということが強調されていて、これは私も以前から言っていたことですが、良いことだと思っています。

例えば、今年の夏にたまたまテレビを見ていたら、中学生の相撲の全国大会があって、大東市の中学生3人が、ベスト8として出ていました。他の中学校の生徒は、ものすごく体が大きく、強豪校ばかりだったので、ベスト8止まりかなと思っていたのですが、確か準優勝していたと思います。それを見て私は、市役所に電話をして、「みんな見たらどうか」と言いたい気持ちになったぐらいでした。

その後、市報で市長の元を訪問したという記事は載っていたのですが、私はたまたまテレビを見ていたから知っているだけで、ほとんどの方は知らないのではないかと思います。市長が励ましたり表彰したりということがあるかと思いますが、そのような褒めたたえるということは、子どもにとっても非常に良いことだと思っています。色々なメディアや市報でお知らせするのも良いと思いますし、それ以外にも、例えば、大阪の南部の忠岡町というところでは、今度大リーグから帰ってくる前田健太投手のユニホームや写真、記事など、広島カープ時代のころからのものがロビーに飾られています。

他の市でも、色々なスポーツやオリンピックなどで活躍している選手の写真や記事が置いてあったり、あるいは、その市の出身の有名な歌手のこともなんかも書いてあったりします。自分のまちの出身の人にこういう人がいるのか、ということを知ることができますし、さらに、市の特産品だとか、色々なものが現物を置きながら紹介されていて、誰でも行ったら見られるようになっていきます。

ぜひ大東市でもそれをやってほしいと思うのですが、ロビーが狭いので難しいかなとも思っています。どのまちも建物が広いからできているのだろうな、とは思いますが、大東市にも、野球殿堂入りするような選手もいたわけですので、そういう人を「知っている人は知っているけれど、知らない人は全く知らない」という状態にしておくのではなく、写真等と一緒に紹介すれば、「大東市はすごいな」という、市民の誇りもみんな持っていくのではないかと思います。そういう細かいことを一つひとつやっていくことが必要ではないかと私は思います。

それから、コロナ禍になる前に、この場で言ったことがあったのですが、「大東メッセ」というものを作ってみたいかと提案したことがありました。

大東市には大学があって、大学では色々な先生がおられます。そして、企業もたくさんあります。これに大東市という行政を加えた、この3つが一堂に会するのが「大東メッセ」です。このメッセには、高校生や大学生、一般の市民も参加します。企業は色々な人に自分たちの仕事を知ってもらえるし、参加者は興味を持った企業に話を聞くことができます、また大学の先生に、ご自身の研究している内容を紹介してもらうことで、先生の研究に興味を持った高校生がその大学を選んだり、企業と連携したりすることも考えられます。大東市には世界的な企業もありますし、大学生が市内の企業を知ることによって就職にも繋がります。また、企業同士の繋がりもできて、コラボした企業活動にも繋がるのではないかと思います。

あるいは行政の場合にも、今市職員として、こういう技能を持った人が欲しいと考えている、とアピールすることができます。そうすると人材の確保にも非常に貢献するのではないかと思います。そういう大学と企業団体と行政が協力して、大東メッセ、つまり見本市を1日限りでもいいのでやってほしいということを提案しました。

そうすると、起業したい人が増えたり、市内の企業に就職したり、企業の技術と大学の研究で新しい取組をしたりすることが可能になるのではないかと思います。コロナの前に盛んに言っていたのですが、コロナになったために開催されることはありませんでした。

そういうことを、今回どこで考えたらいいかと言ったら、例えば戦略の14、15ページの産業のところや、あるいは、18、19ページの行政サービスのところにも関わってくるのではないかと思います。具体的なことは戦略には書けないかもしれませんが、行政と産業と大学などが一緒にやっていくということが非常に重要ではないかと私は思います。

それでは最後に、他の委員の方がおっしゃったことに対する質問やご意見、そしてこの2つのテーマ以外に何かおっしゃりたいことがあったら、どうぞご遠慮なく発言していただければと思います。

【事務局】

先ほど職員の離職率のご質問があったかと思うのですが、データがありましたのでご紹介させていただきます。

直近5年間の平均で、定年退職を除いた退職者の常勤職員に占める割合ですが、1.3%ということになります。経年で見ますと微増傾向にあります。

国が調査しているもので、地方公共団体の離職率は直近5年の平均で1.4%程度ということですので、本市の離職率は全国平均をやや下回っているという状況です。

離職の主な要因といたしましては、地方公共団体の採用年齢が年々高くなっておりまして、新卒でなくても、年齢が高くても入れるという状況になっています。こういった採用試験を受けやすい状況や、民間企業の賃金が上昇しておりますので、雇用が民間に流れてしまっているという状況、それから特に今の若い方たちは転職に対するハードルが低くなってきている時代ですので、終身雇用に対する意識の変化などが考えられるのではないかと考えているところです。

【委員】

今職員は何人ぐらいいるのですか。

【事務局】

正職員は600人ぐらいです。あとは会計年度職員と言いまして、昔でいうところのアルバイトの方がおられる状況です。

【委員】

今日もたくさんの貴重な意見をお聞かせいただき、ありがとうございます。

その中で、KPIについてのご質問があり、数値については目標設定をしながら、今後しっかりと進捗管理も含めてやっていきます、という趣旨の説明が事務局よりありました。当然そこにはPDCAサイクルの観点でしっかりと評価していくことも入ってくるかと思います。

それから、現状把握という意味において、数値目標を設定する上ではベンチマークの必要性の話もあって、しっかりとめざすべき数値の設定をしながら今後展開していきたく思います。

再三言っていますが、3月議会に上程されるということですので、我々1号委員である市議会議員3人は、議案上程に際してもまた委員会等で、議論していくということになってきます。先日、合同委員会報告会で、この内容の進捗報告があったときにも、たくさん意見がありまして、注目されているという状況があったと思っています。それについては、事務局も十分に思っているところだと思います。

KPIの数値に対する意見が多かったのですが、KPIの目標設定そのものの自体の評価はどこがするのかが非常に重要になると思います。各部門がそれぞれ能動的に目標設定できるよう、主体性を持たせる仕掛け作りをしているとは思いますが、例えば上位方針とマッチした各部門・各グループのその目標数値になっているのかどうか、ということも非常に重要だと思います。

そのあたりの意見が、今日の会議でたくさん出ていたかと思うのですが、そのあたりの評価はどこがしていくのか、お聞きできますか。

【事務局】

KPIの設定につきましては、それぞれの取組を担当している部署に、まずは目標値を考えてもらおうと考えています。

その際にどうやっても実現不可能な目標値を掲げても意味がありませんので、ある程度現実的な数値、例えば、これまでの趨勢を踏まえて、少し上振れするような目標値を掲げるなど、そのあたりの考え方については、以前研修会をさせていただきましたので、それを参考にしながら、各部署でまずは考えてもらいたいと思っています。

ただ、それが妥当かどうかということにつきましては、やはり庁内でしっかりと議論していくべきだと思いますので、例えば推進本部会議という庁内の幹部職員からなる会議がありますので、そちらの方でもお示しをさせていただきながら、もちろん各部署の中でも議論してもらいながら、KPIの目標値は設定してまいりたいと思っています。

また、設定した数値に対して、実際にどのような実績を得たのかということにつきましては、この審議会の皆さまに、例えば来年度のこの場でご報告をさせていただいたり、あるいは議会の合同委員会報告会でもご報告をさせていただいて、第三者の視点からご意見を頂戴できればと思っています。

【委員】

ありがとうございます。

要するに目標設定についても、今回示されているような上位方針的な要素のもとに、個々の目標が妥当かどうか、整合性があるかを見るのが大事だと思います。

私が最初の3分間の意見の中で触れたところが、実はそこにも関係してるところでして、例えば戦略の中の「危機管理」のところの長寿命化計画の考え方と、戦略の8つ目の「行政サービス」のハードの再編の考え方、つまり、人口の減少に伴って適正な公共施設のあり方を検討するところにおいては、場合によっては、売却も含めた縮小方向の考え方ということが、実は親和性で言ったら繋がってくる話になってくると思っています。

ですから、またがった内容の項目が、実は表裏一体として見ていかなければならないようなものの目標設定に対しては、妥当性を持たせた中でしっかりと設定していかないといけないと思っています。

時間もあまりない中ですが、そのあたりをしっかりと慎重に検討していくことが必要ですし、上程された以降も、また微調整がきくようなバッファを持たせた目標設定の仕方もしていくという話もあったので、そのあたりはフレキシブルに動いていただきたいと思います。そのあたり、部門間連携をしっかりとしながら、そして上位の方針との整合性も達する中で、目標設定してほしいと思いますので、よろしくをお願いします。

【委員】

総合戦略の4ページの施策の方向性を書いてある「一人ひとりの幸せの増大」という言葉について、私自身は非常に内々で引っかかっています。

「一人ひとりの幸せ」というのは、一人ひとりの価値観が違うわけですから、行政側がどうこうというものではないと思います。「給料の手取りが減ったから、しんどくなって幸せではない」と感じる人もいればそうでない人もいて、それぞれ幸せ度の認識が違ふと思います。地域の中においても、行政においても、この中の取組においても、市民に対して「大東市に住んでいただけたら、色々な意味で安心ですよ」「大東市の行政は市民一人ひとりをこういう仕組みで守りますよ」「防災にしても、教育にしても、子育てにしても、出産にしても、色々な地域での取組、行政の取組、官民一体となった取組も含めて、市民の安心を醸し出すために、色々な政策を講じているので、安心して大東市に住んでください、大東市に来てください」というような形の、「安心の増大」というような捉え方を私はしています。文章的にはこの「幸せ」には、色々な個人的な思いがあろうかと思っていますので、行政サービスはやはり、市民に対しての安心の提供だというのが、一番大きな一大看板であってしかるべきではないかと思っています。

【会長】

今おっしゃった戦略の4ページの1行目に「一人ひとりの幸せの増大」が書かれていますが、その幸せは人によって個人個人で違うだろう、というお話でした。

しかし、その次を見ていただきますと、施策の方向性の中に、「市民の日々の暮らしの満足度を高める」と書いてあり、これの中に安心も具体的に入っていくということになります。

「一人ひとりの幸せの増大」という言葉は、非常に抽象的であって、個人の幸せというのは、行政に関わるわけではないのですが、「全体として幸せになることを、我々行政としては望んでいる」という意思のアピールだろうと私は思っています。

他にどなたかご意見はありますか。それでは大体皆さま方のご意見をお聞きできたのではないかと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

それでは事務局には、ただいまの意見を踏まえて、修正すべきところは修正を進めていただくようお願いします。

以上で本日の議題は終了となります。皆さまありがとうございました。進行を事務局の方にお返しいたします。

【事務局】

会長、ありがとうございました。皆さま、貴重なご意見ありがとうございました。

本日皆さまから頂戴いたしましたご意見につきましては、審議会の議事として公表をさせていただく予定としております。

最後に今後のスケジュールについてですが、本日皆さまから頂戴いたしましたご意見や、今庁内でも照会を行っておりますので、それらの意見を踏まえてまとめた案をパブリックコメントに付す予定としております。

その後、パブリックコメントでいただいたご意見も踏まえまして、1月に開催予定の審議会で最終案としてお示しさせていただく予定としております。

なお次回の会議では、審議会への諮問に対する答申案もお示しさせていただく予定としております。連続した会議になりますが、また来月、よろしく願います。

それではこれもちまして会議を閉会いたします。皆さま方にはお忙しい中ご参加をいただきまして、また貴重なご意見を多数頂戴いただきまして、誠にありがとうございました。